# 経済対策 効果ある対策で神戸経済を活性化！

## 1 大阪万博を兵庫の発展につなげる

（平成29年2月24日本会議一般質疑）

**―総額6兆4千億円の経済効果を取り込め！―**

昨年11月、2025年開催の国際博覧会の会場が大阪・関西に決定しました。それに先立つ平成29年2月、向山好一は誘致に成功すれば会場に隣接する神戸市はじめ兵庫県の将来を大きく変え得る絶好のチャンスとなると指摘し、下記の2点を強く訴えました。

**1.万博のレガシーを兵庫の産業育成・雇用の創出につなげる**

会場の一部をポーアイに誘致し次世代産業である医療・健康産業の育成につなげるべき。（下記神戸新聞参照）

**2.統合型リゾート開設を兵庫観光に活かす**

大阪府はIR（統合型リゾート施設）を同じ場所で整備する予定で、これを神戸ビーフの販路拡大、有馬温泉などの神戸の観光振興に結びつけるべき。

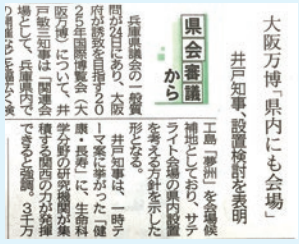
**神戸観光振興のための具体的提言**

1. 神戸港周辺での「神戸ビーフ館」の開設
2. 外国人向け健康・医療ツーリズムの振興
3. 神戸港と夢洲地区を結ぶ航路の整備
4. 神戸空港の国際化、24時間化

**前 進**

### ポーアイでのサテライトパビリオンなど実現の方向へ

正式な大阪開催決定を受け、ポートアイランドでの一部パビリオンの設置や神戸港と会場となる夢洲間の客船運航などの実現に向けて検討が始まっています。今後、IRの整備と連動させて神戸経済が活性化するよう具体的提案を続けていきます。



県会書議から

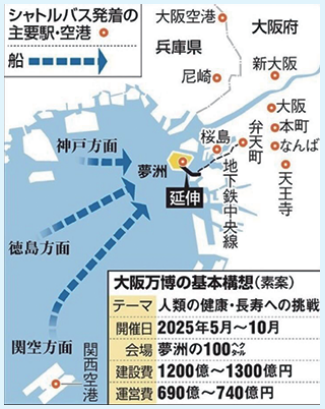
大阪万博「県内にも会場」

井戸知事、設置検討を表明

兵庫県議会の一般質問が24日にあり、大阪府が誘致を目指す2025年国際博覧会（大阪・万博）について、井戸敏三知事は「関連会場として、兵庫県内でできると強調。3千万人が訪れる大阪・夢洲」を会場候補地としており、サテライト会場の県内設置を考える方針を示した形となる。

井戸知事は、一時テーマ案に挙がった「健康・長寿」に、生命科学分野の研究機関が集積する関西の力が発揮できると強調。3千万

平成29年2月25日　神戸新聞朝刊より




| 大阪万博の基本構想（素案） | |
|---|---|
| テーマ | 人類の健康・長寿への挑戦 |
| 開催日 | 2025年5月～10月 |
| 会場 | 夢洲の100ヘクタール |
| 建設費 | 1200億～1300億円 |
| 運営費 | 690億～740億円 |



## 2 神戸空港の24時間化、国際化の早期実現

（平成29年2月24日　本会議一般質疑・平成29年5月16日　建設委員会質疑）

向山好一は長年神戸空港の24時間化と国際化の実現に取り組んでいますが、ようやくその実現に向けて展望が見えてきました。関西空港でのインバウンド処理能力は限界を超えているのに加え、2025年の大阪万博含め今後世界的規模のイベントが目白押しで、**アジアを中心に外国人観光客はさらに増加する見込みです**。それを受け入れる空港が関西圏で関空オンリーでは対応できません。

さらに、昨年の台風時に関空の連絡橋が使用不能になり危機管理の観点からも神戸空港を国際化することは必要不可欠になっています。

向山好一は、平成29年の一般質疑等で「神戸空港の24時間化と国際化は時代の要請だ」と強く訴え、スピード感をもって対応するように迫りました。

**前 進**

### 神戸空港の規制緩和の具体的検討が始まる

下図に示すとおり、神戸を訪れる外国人観光客は大阪・京都に大きく水を開けられています。この大きな要因は、神戸にしかない魅力的スポットがないこと（これは神戸ビーフ館建設を訴えています）と、**空の玄関口が存在しないことです**。国際観光振興で神戸経済を活性化させるためにも神戸空港の24時間化と国際化は絶対に実現させなければいけません。

2018年（平成30年）12月25日　火曜日

関西3空港懇

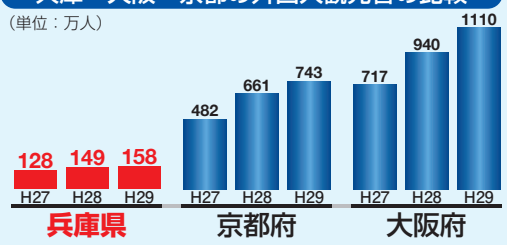
井戸知事

神戸の発着枠 倍増提案

国際便解禁も要請

関西浮揚へ規制緩和焦点

平成30年12月25日　神戸新聞朝刊より

国交省も関西財界もようやく重い腰を上げて昨年末に「関西3空港懇談会」を開催し、神戸空港の規制緩和の具体的議論が始まっています。向山好一は、遅くとも5年後に「24時間化と国際化」が実現できるよう強力に取り組んでいきます。

**兵庫・大阪・京都の外国人観光客の比較**